

## いきいきわくわく科学賞 2018(第53回新潟県児童生徒科学研究発表会)

12月15日(土)、新潟日報メディアシップを会場に「いきいきわくわく科学賞 2018」の表彰式が行われました。長岡地域からは35研究が参加し、そのうち9研究が上位入賞作品に選ばれました。和島小学校の小林祐仁さんは、「ベートーベンを超えろ!～骨で音を聞く パート3～」の研究で2年連続の入賞を果たしました。口にくわえた棒をピアノに押し当て、伝わってくる振動で音を聞くという研究を継続して3年目。よく聞こえ、さらにあごが疲れにくい素材を追究しました。昨年度の結果を基に予想を立て、多くの実験を行っただけでなく、丁寧にデータを分析し、自分なりの考えを述べている点が評価されました。



よく聞こえ、さらにあごが疲れにくい素材を追究しました。昨年度の結果を基に予想を立て、多くの実験を行っただけでなく、丁寧にデータを分析し、自分なりの考えを述べている点が評価されました。

### 上位入賞研究

賞	学校名	年	氏名・グループ名	研究題目
新潟日报社賞	和島小学校	5	小林 祐仁	ベートーベンを超えろ!～骨で音を聞く パート3～
	附属長岡中学校	3	野崎 浩気	混合物の炎色反応
東北電力賞	附属長岡中学校	3	丸山 陽大	熱気球を長く飛ばすには2
わくわく賞	東北中学校	2	東北中科学部2班	リサーチャーズ
優秀賞	富曾亀小学校	4	齋藤 蒼太	まほうびんに挑戦!
	四郎丸小学校	5	関谷 陽翔	ぼくの額に水泳帽の跡がついた!! ～どうすれば防ぐことができたのか～
	表町小学校	6	佐藤 茶和	ブラックライトで照らしてみると・・・?
	旭岡中学校	2	伊平 圭汰	地球温暖化について考える ～CO <sub>2</sub> の温室効果と植物の環境機能についての実験～
	附属長岡中学校	2	田邊 絵実	天気、気温、発芽日数と植物の成長の関係

科学研究を通して、理科の見方・考え方が身に付き、自らの力で問題を解決する力が育ちます。より多くの児童生徒が科学研究に取り組むことを願っています。

理科教育センターでは、夏休み前に学校を訪問し児童生徒に科学研究の取り組み方を指導したり、夏休み中には研究の進め方・まとめ方について相談を受けたりしています。積極的に理科教育センターを活用してください。

## 科学探究塾を開催しました



参加記念バッジ

12月26日（水）に、長岡地域の中学校1、2年生を対象にしたイベント「科学探究塾」を行いました。科学に高い関心をもつ12人が参加し、科学を探究する楽しさをたっぷり味わいました。

### ○実験講座 「浮き沈みの不思議を解き明かせ！」

ペットボトルと魚型のタレ瓶を使って、簡単な浮沈子を製作しました。ペットボトルをギュッと握るとそれまで浮いていたタレ瓶が沈み、力をゆるめると再び浮く現象を観察し、その仕組みをグループで考え発表しました。加える力によって変化するものに着目し、タレ瓶が浮き沈みする理由を体積や密度と関連付けて導き出しました。



### ○長岡高等学校理数科による課題研究の中間発表

長岡高等学校理数科の2年生4人が参加者の活動を支援しました。また、高校で取り組んでいる課題研究について発表しました。学校のトイレの消臭化を目指し、臭いの元となるアンモニアを分解する方法をグループで研究しています。中学生にも分かりやすい内容で、参加者は興味深く聞いていました。

### ○課題探究 「ゆっくり転がせ！最遅王を目指せ！Part II」

午後は、決められた大きさの空間の中に、金属球をできるだけゆっくり転がり落とす装置をグループで製作しました。互いにアイデアを出し、話し合い、試行錯誤を繰り返しながら課題を追究しました。活動を通して、積極的にコミュニケーションをとる姿が見られました。

